

(要約版)

中国におけるトン（侗）族の喫煙文化の研究 ——社会学の視点から

研究助成者 姚 新華（(北京大学) 社会学）

1. 研究目的

トン族は、中国の西南部湖南省・貴州省、広西省の山間地域に居住し、古くからたばこを栽培する慣習があった。トン族の喫煙文化は社交の場において、漢民族の茶文化に対応するものとして重要な役割を果たしている。また、中国の少数民族の多くとは異なり、女性の禁煙が美德とされ、それが社会規範として定着してきた。

現代のトン族の社会では以前と異なり、たばこは社交の手段だけではなく、経済的収入の主な源泉ともなっている。そのため、彼らは、たばこの栽培・加工・流通の過程において作業を行うための独特な親族組織を形成している。その栽培・発酵・乾燥（烤煙）技術は高く評価されているにもかかわらず、言語面での困難や交通事情などにより、トン族の喫煙文化に関する研究は現在まで殆どなされていない。

本研究は、トン族が集中して居住している湖南省、貴州省および広西省において実施した、たばこの栽培、加工、流通各過程に関する現地調査に基づき、下記について考察したい。

- ① トン族の喫煙文化とその社会的意義について。まず喫煙という習慣の実情と変遷を解明し、さらに喫煙がトン族の社会関係とその構造にどのような機能を果たしているか、地域間の比較を通じて明らかにする。
- ② 女性の禁煙はなぜ美德とされてきたかについて、性的役割の視点から考察する。また、そのような社会規範は現代の禁煙主義の主張とどんな関連性があるかを探る。
- ③ トン族のたばこの栽培から加工、流通までの過程における家族間・親族間の社会機能の特徴を読み解く。

2. 研究方法

本研究は、文献的研究と実証的研究から成る。研究の縦軸をトン族の歴史的な変遷、横軸を地域間比較とし、トン族民衆とたばこの運営関連機関を対象に量的及び質的調査を実施した。

文献研究：2012年4月に文献研究を始め、日本国内の図書館、国立民族学博物館、北京大学図書館、中国国家図書館など、たばこ消費などの意識調査に加え、トン族の喫煙の歴史とたばこの栽培、加工、流通に関連した知識について文献研究を行った。

現地調査：たばこの栽培、加工、流通の時期に合わせて2012年に3回の現場調査を行った。4～5月には湖南省で栽培過程に関する調査を、7月には湖南省と貴州省において加工過程の調査を行った。10月には広西省を訪問したが、たばこを栽培していないため、再び湖南省と貴州省において流通と消費に関する調査を行った。

3. 調査結果と考察

第一に、トン族は古くから喫煙文化があった。それは彼らの民間伝説や、男性の服装、喫煙の道具、地方風習などにそれを見ることができる。しかし、情報化社会の発達、漢文化の影響や、工業化の進展などによって、トン族の喫煙文化は変容、喪失の危険性がある。

第二に、トン族の喫煙文化の実情を考える場合、彼らの生活の中心となる場——鼓楼、風雨橋、火舗を無視することはできない。この3つの場所が農業社会における伝統教育にとって重要な場所であり、男性たちがたばこを吸いながら、会話を交わすことを通して教育が行われているのである。

第三に、トン族の喫煙の社会的意義は3つあげられる。①人生の通過儀礼に関わることである。南トン族の男性がたばこに火を付けて貰うことによって結婚相手を探す風習や、婚約備品としての役割、死者のキセルを燃やす慣習など、すべて人生の通過儀礼に関連している。②家庭内の秩序と男性社会の秩序を維持する機能である。家の中心となる生活場火舗での座る席＝男性の家での喫煙席を設け、家庭内の上下関係を肯定し、さらに集団喫煙の場面において年少者が年長者の前で長いキセル使うのを禁止するのも、年少者から年長者へ敬煙するという文化もトン族における男性の社会的秩序の表現である。③喫煙は社交機能をもつ。トン族にとって、たばこは集団的社交と個人的社交の一種の手段である。その効果により南トン族は集団的社交に、北トン族は個人的社交に長けている傾向にある。

第四に、歴史的にトン族の女性は男性と同じような地位を占めていた。その背景はトン族が信仰する先祖が女性神であったことが指摘された。宋朝以後、漢文化のトン族地域への浸透による男尊女卑思想の影響をうけて女性の地位が揺らぐことになった。現代社会において女性の喫煙が反対される第一の理由は女性が妊娠するという性別役割にあり、第二の理由としては女らしさを壊すということにある。この点に関して、現代の禁煙主義の主張と違って、トン族の喫煙文化の特徴と言えるだろう。

第五に、トン族地域では、伝統的農家早煙（早烟）生産と、政府による大規模葉たばこ（烤烟）生産が併存している。早煙生産は自給自足時代からの伝統的特徴をもっている。葉たばこ生産は、煙草専売公社と政府の元で行われる経済生産活動である。若年の出稼ぎ労働者の増加や広域栽培によって、親族組織だけに頼って成り立った生産機能は、労働市場に依存するようになった。

以上のように、トン族にとって、喫煙文化は実際に人々の日常生活に浸透しているものの、独特な文化として自覚されていたわけではなかった。しかしトン族のあらゆる慣習や伝統は喫煙文化に表れているのである。現在では経済面をはじめ中国社会全体の変化や、携帯など情報化製品の普及や、漢文化の影響が深刻化する中で、トン族の喫煙文化をどこまで守ることができるか危機的な状況にある。